



2012年度第1四半期 連結業績の概要

経営管理部長 高原 宏

2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

2012年度第1四半期 連結業績



	11年度	12年度	対前期増減		為替影響除き
	4-6月実績 (億円)	4-6月実績 (億円)	(億円)	(%)	(億円)
売上高	3,572	3,983	+ 411	< +11.5)	+ 458
売上総利益	2,783	2,950	+ 167	< +6.0)	+ 212
特殊要因除き *1	2,783	2,956	+ 172	< +6.2)	+ 217
一般管理販売費	1,044	1,535	+ 491	< +47.1)	+ 516
特殊要因除き *2	885	1,210	+ 325	< +36.7)	+ 346
研究開発費	577	789	+ 212	< +36.7)	+ 218
営業利益	1,162	626	△ 536	< △46.2)	△ 523
特殊要因除き *3	1,322	958	△ 364	< △27.5)	△ 347
経常利益	1,192	662	△ 530	< △44.5)	△ 520
特別損益	—	95	+ 95	—	+ 95
純利益	756	876	+ 120	< +15.8)	+ 125
特別損益、特殊要因除き *4	869	611	△ 258	< △29.7)	△ 251
EBITDA(特別損益除き)	1,476	1,144	△ 332	< △22.5)	
EPS	96円	111円	+15円	< +15.8)	
特別損益、特殊要因除き *4	110円	77円	△ 33円	< △29.7)	
為替レート	USD	82円	80円	△ 2円	
	EUR	117円	103円	△ 14円	

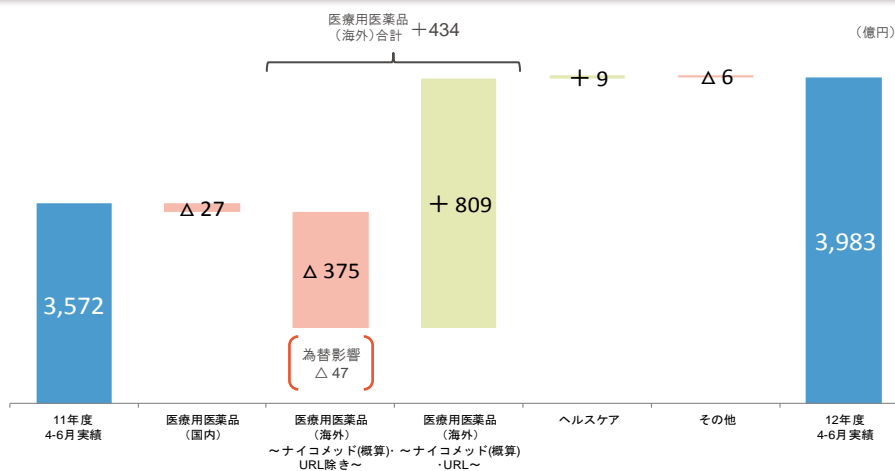
*1 売上総利益に係る特殊要因：企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化

*2 一般管理販売費に係る特殊要因：企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費

*3 営業利益に係る特殊要因：*1および*2

*4 純利益、EPSに係る特殊要因：*1、*2に加え、URL買収時の後払取得対価に係る当期費用、移転価格税制に係る還付税金および還付加算金

売上高の増減内訳【セグメント別】



> 医療用医薬品(海外)合計では、対前期で434億円の増収
 > ナイコメッド買収による増収効果は約770億円(概算)、URL買収による増収効果は39億円

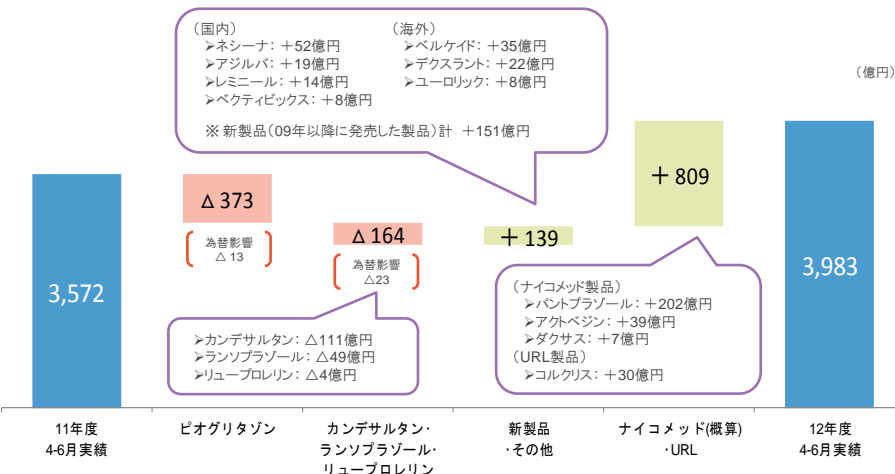
2 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

売上高の増減内訳【品目別】



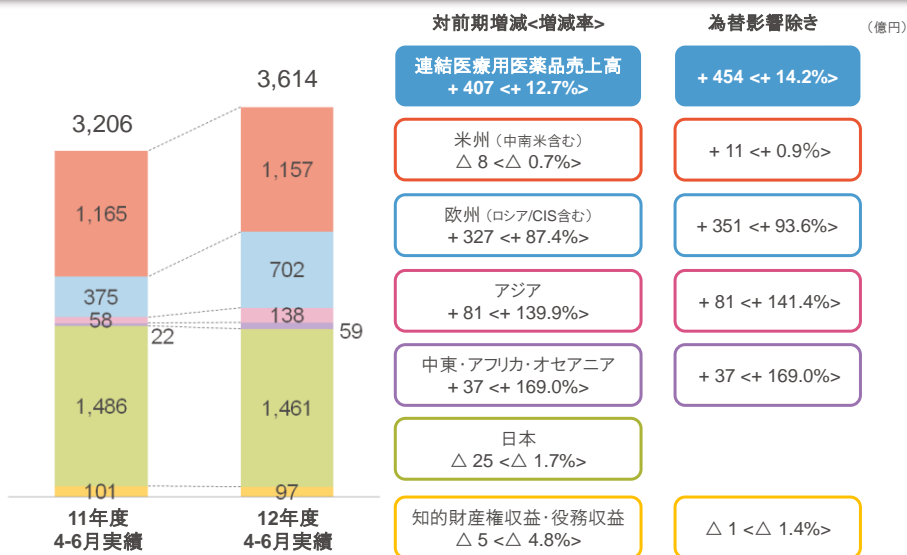
ピオグリタゾン、カンデサルタンなど成熟品の減収を、ベルケイドの増収(+35億円)、ネシーナをはじめとする新製品(+151億円)、ナイコメッドおよびURLの買収効果(+809億円)で吸収し、対前期で411億円の増収



3 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

連結医療用医薬品売上高【地域別】



4 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

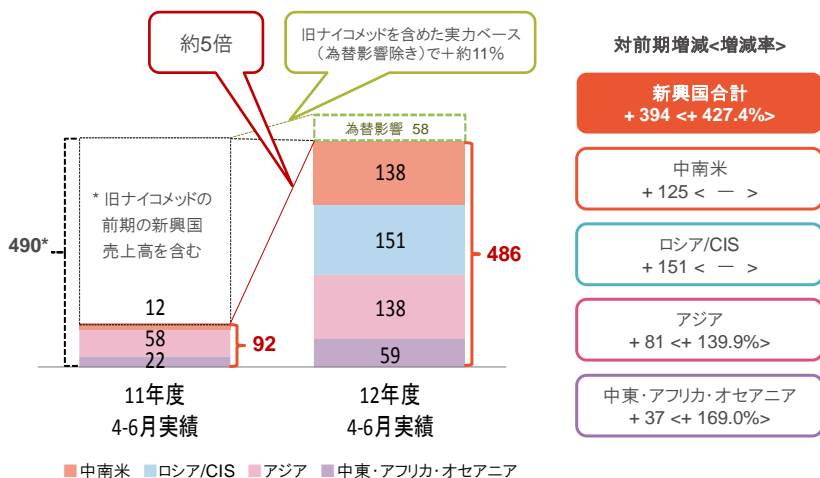
武田薬品工業株式会社

連結医療用医薬品売上高【新興国市場】



ナイコメッド買収により新興国市場での売上高は対前年で約5倍に

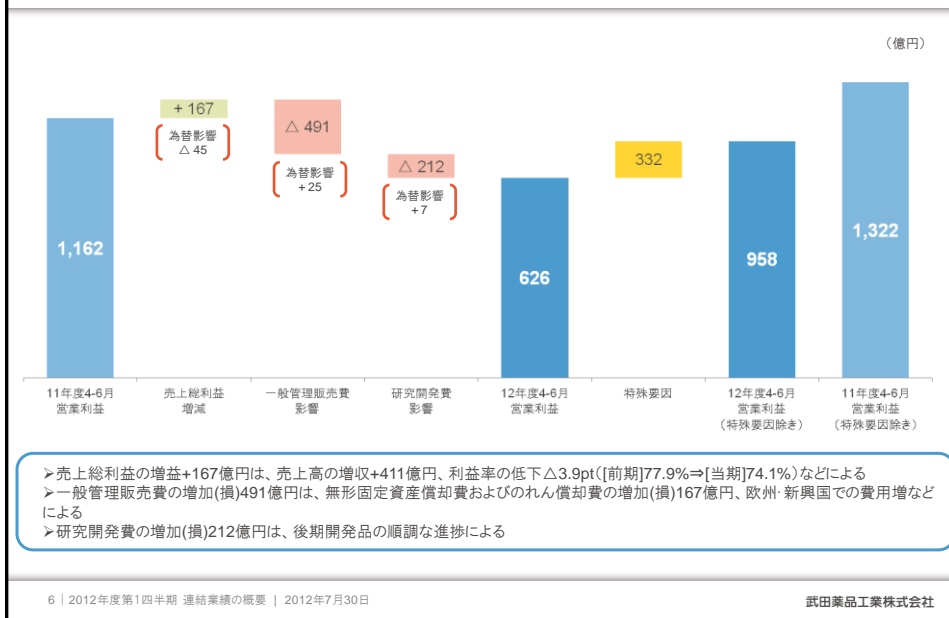
(億円)



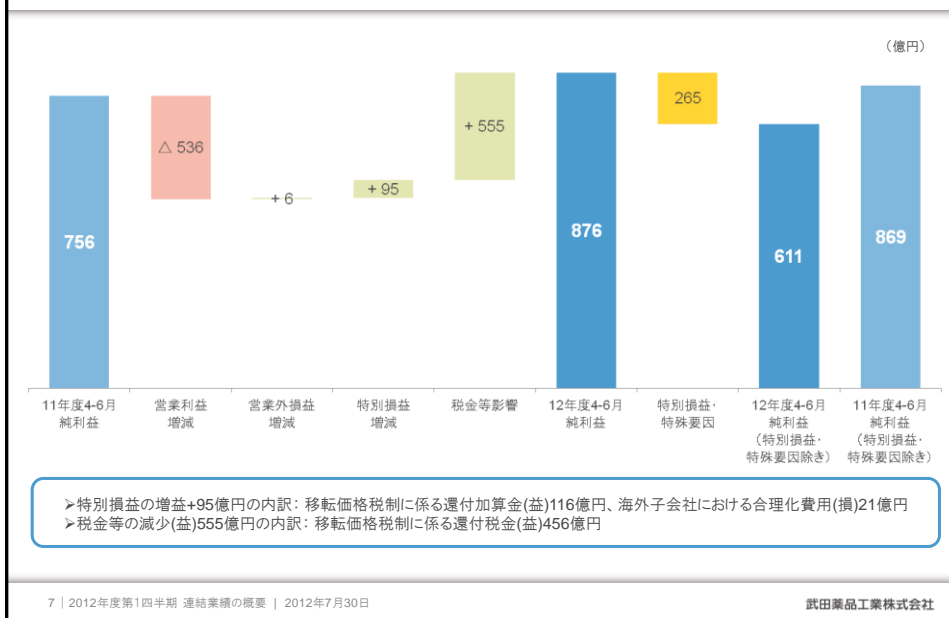
5 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

営業利益の増減内訳



純利益の増減内訳



キャッシュフローの状況



	11年度 4-6月実績	12年度 4-6月実績	(参考)11年度 4-3月実績
営業活動によるCF	516	1,041	3,366
税金等調整前当期純利益	1,192	757	2,525
減価償却費(無形固定資産償却費を含む)	247	390	1,280
のれん償却費	34	78	222
運転資金増減	△186	△116	647
法人税等の支払額	△585	177	△1,521
投資活動によるCF	△228	△990	△10,940
有形固定資産の取得による支出	△148	△282	△619
子会社株式の取得による支出	—	△609	△10,400
財務活動によるCF	△633	△623	3,938
短期借入金の純増減額	△1	1	2,398
長期借入れによる収入	—	—	1,100
社債の発行による収入	—	△0	1,896
配当金の支払額	△623	△610	△1,420
現金及び現金同等物にかかる換算差額	△183	△173	△549
当期のCF	△528	△744	△4,185
現金及び現金同等物期末残高	8,199	3,798	4,542

➢引き続き3,000億円レベルの研究開発投資を維持した上で、着実に負債を返済し、安定的な配当方針を維持

8 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

(注) 第1四半期のキャッシュフロー計算書は任意開示のため、監査人のレビュー手続きは踏んでおりません。

武田薬品工業株式会社

2012年度 連結業績の見通し

5月公表より修正なし



	11年度実績		12年度見通し		対前期増減			
	上期 (億円)	年間 (億円)	上期 (億円)	年間 (億円)	上期 (億円)	<%>	年間 (億円)	<%>
売上高	7,025	15,089	7,800	15,500	+ 775	<+11.0>	+ 411	<+2.7>
研究開発費	1,190	2,819	1,400	3,100	+ 210	<+17.6>	+ 281	<+10.0>
営業利益	2,110	2,650	1,000	1,600	△ 1,110	<△52.6>	△ 1,050	<△39.6>
特別要因除き*1	2,421	4,145	1,700	3,050	△ 721	<△29.8>	△ 1,095	<△26.4>
経常利益	2,096	2,703	950	1,500	△ 1,146	<△54.7>	△ 1,203	<△44.5>
特別損益	—	△ 179	200	550	+ 200	—	+ 729	—
純利益	1,357	1,242	1,050	1,550	△ 307	<△22.6>	+ 308	<+24.8>
特別損益、特別要因除き*2	1,576	2,482	1,050	1,900	△ 526	<△33.4>	△ 582	<△23.4>
EBITDA(特別損益除き)	2,667	4,226	1,940	3,450	△ 727	<△27.3>	△ 776	<△18.4>
EPS	172円	157円	133円	196円	△ 39円	<△22.6>	+ 39円	<+24.8>
特別損益、特別要因除き*2	200円	314円	133円	241円	△ 67円	<△33.4>	△ 74円	<△23.4>
為替レート	USD 80円	79円	80円	80円	+ 0円	—	+ 1円	—
	EUR 114円	109円	105円⇒101円	105円⇒100円	△ 13円	—	△ 9円	—

*1 営業利益に係る特殊要因：企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費および棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化
*2 純利益、EPSに係る特殊要因：*1に加え、URL買収時の後払取得対価に係る当期費用、移転価格税制に係る還付税金および還付加算金

参考：為替レート1円変動影響

	12年度 (億円)	
	USD	EUR
売上高	44	40
営業利益	△9	0
純利益	△6	△3

9 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社



Appendix

| 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

特殊要因、EBITDAの内訳



特殊要因(営業利益)の内訳	11年度 4-6月実績	12年度 4-6月実績	(億円)
棚卸資産のステップアップの費用化<売上原価>	—	6	うちナイコメッド:160
URL買収	—	6	
無形固定資産償却費<一般管理販売費>	125	248	ダクサスは 2021年まで
TAP統合	26	25	2012年まで償却
ミレニアム買収	97	95	2018年まで償却
ナイコメッド買収	—	115	2026年まで償却
URL買収	—	10	2030年まで償却
のれん償却費<一般管理販売費>	34	78	
ミレニアム買収	31	30	2028年まで償却
ナイコメッド買収	—	44	2031年まで償却
URL買収	—	2	2028年まで償却
特殊要因-計	159	332	コルクリスは 2029年まで
EBITDAの内訳	11年度 4-6月実績	12年度 4-6月実績	
経常利益	1,192	662	
+ 営業利益の特殊要因 (棚卸資産のステップアップの費用化(6億円を除く))	159	326	
+ URL買収時の後払取得対価に係る当期費用<営業外費用>	—	6	
+ 減価償却費	122	142	
+ 支払利息	3	8	
EBITDA(特別損益除き)	1,476	1,144	

A1 | 2012年度第1四半期 連結業績の概要 | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社



2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート

CMSOオフィス長
三好 集

2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

本日のアジェンダ



- 直近のステージアップ
- 癌領域における進捗
- 中枢神経疾患領域における進捗

直近のステージアップ (2012年5月11日以降)



			Ph-1	Ph-2	Ph-3	申請	承認
Rienso	成人における慢性腎疾患に伴う鉄欠乏性貧血	欧州*					→
SYR-322	糖尿病	欧州			→		
SYR-322	糖尿病(アクトスとの合剤)	欧州			→		
SYR-322	糖尿病(メトホルミンとの合剤)	欧州			→		
MLN9708	多発性骨髄腫	米国・欧州		→			
TAK-375SL	双極性障害	米国		→			
MLN0264	進行性消化器癌	—	→				
TAK-357	アルツハイマー病	—	→				
TAK-063	統合失調症	—	→				
ITI-214	統合失調症に伴う認知機能障害	—	→				

* 欧州はEU加盟国

2 | 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

癌領域における進捗 ～臨床後期品目の米国腫瘍学会 発表データ～



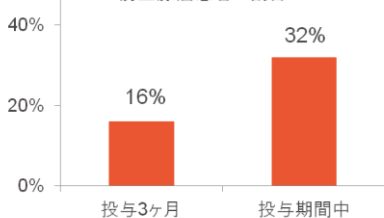
TAK-700 (orteronel)

開発状況

- 2013年度申請を目標一日米欧
- 転移性の去勢抵抗性前立腺癌を対象とした臨床第3相試験を実施中

主要データ

PSA値0.2ng/mL以下(検出限界以下)
になった非転移性の去勢抵抗性
前立腺癌患者の割合



PSA: 前立腺特異抗原

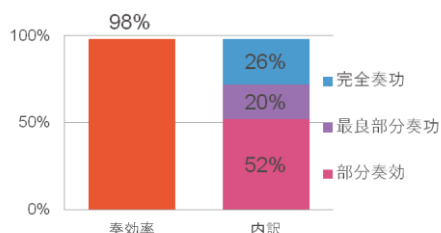
MLN9708 (ixazomib citrate)

開発状況

- 2014年度申請を目標一日米欧
- 再発・難治性多発性骨髄腫を対象とした臨床第3相試験を開始

主要データ

4サイクル以上(中央値は5サイクル)の治療を受けた46名(未治療の多発性骨髄腫患者)



3 | 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

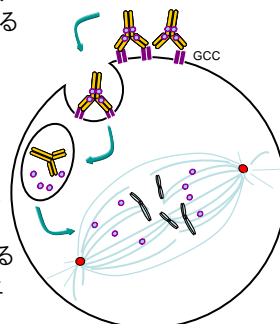
癌領域における進捗 ～パイプラインを強化する新規Ph-1化合物～



MLN0264

作用機序

- 抗GCC* 抗体薬物複合体: 微小管阻害作用を有する薬剤モノメチルアウリスチンE (MMAE) とヒト型抗体を、細胞内に存在する蛋白分解酵素により開裂可能な架橋結合システムで結合
 - GCC: 腸上皮細胞膜に発現する膜貫通型受容体
 - 架橋結合システムの技術はシアトル・ジェネティクス社より技術導入
- 本薬は、正常な腸上皮細胞膜に存在するGCCには到達せず、腫瘍細胞で発現しているGCCにのみ到達し結合
- 前臨床試験で、本薬がGCCを発現している細胞に取り込まれると、蛋白分解反応によって、MMAEを放出し、細胞周期を停止させ、アポトーシスを誘発することを確認



*GCC: グアニル酸シクラゼC

開発状況

- GCCを発現している進行性消化器癌において臨床第1相試験を実施中

4 | 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

中枢神経系疾患領域における進捗 ～パイプラインを強化する新規Ph-1 & Ph-3化合物～



TAK-375SL (Ph-3)

双極性障害

- MT₁/MT₂ 受容体作動薬。ロゼレムの舌下剤
- 双極性障害1型に顕著な概日リズム障害を治療することにより、双極性障害の急性期、維持期の新しい治療法として期待
- 臨床試験で、双極性障害の維持療法での有効性・安全性・忍容性を確認

TAK-357 (Ph-1)

アルツハイマー病

- 認知機能改善薬
- アルツハイマー病の動物病態モデルで、グルコース利用における障害を低減し、「新奇物体認知テスト」*でも良好な改善

*記憶学習試験の一種

TAK-063 (Ph-1)

統合失調症

- PDE10A 阻害薬
- ドパミン2(D2)受容体のシグナル伝達経路を調節することで統合失調症の陽性症状への効果が期待

ITI-214 (Ph-1)

統合失調症に伴う認知機能障害

- PDE1 阻害薬
- ドパミン1(D1)シグナル伝達を増強することで認知機能を改善
- D1/D2伝達のアンバランスを修正することで向精神薬固有のEPS*を改善

*錐体外路系の副作用(手足のふるえ等)

5 | 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社



Appendix

| 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

地域別パイプライン承認年度見通し



	FY12	FY13	FY14	FY15-FY16
JP	TAK-085	ATL-962	SYR-472 AZILVA/CCB TAK-700 SGN-35	Lu AA21004 TAK-438 TAK-875 MLN9708 MLN0002 TAK-385
US	SYR-322 SYR-322/MET ² SYR-322/ACTOS	Lu AA21004	MLN8237 TAK-700 MLN0002	TAK-875 MLN9708 MLN4924
EU CAN	ADCETRIS Revestive Rienso	SYR-322 SYR-322/MET ² SYR-322/ACTOS Lurasidone	TAK-390MR Peginesatide TAK-491/CLD ³ TAK-700 MLN0002	TAK-875 MLN9708 MLN4924
EM ¹	新興国市場においては、SYR-322、TAK-491、MEPACT、TAK-375、TAK-390MR、DAXAS、SGN-35などの化合物を上市予定			
		¹ 新興国市場、 ² Metformin、 ³ Chlorthalidone		In-house In-license

A1 | 2012年度第1四半期 研究開発におけるアップデート | 2012年7月30日

武田薬品工業株式会社

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



武田薬品工業株式会社